

## 理事会報告

## 日本菌学会 2018 年度第 3 回理事会 議事録

日時：2018 年 12 月 15 日（金）12：00 - 15：00

場所：東京理科大学葛飾キャンパス・研究棟 11 階生物工学科ゼミ室 1

出席者（順不同，敬省略）：会長 山岡裕一，副会長 矢口貴志，岡根 泉（庶務），太田祐子（企画・普及），清水公德（庶務），田中千尋（企画・普及），玉井 裕（日本菌学会会報編集責任者），中島千晴（会計），名部みち代（国内集会），服部 力（編集委員長），山田明義（国内集会，伴さやか（庶務幹事），喜友名朝彦（庶務幹事），鶴海泰久（監事）。

委任状：出川洋介（国際集会）

## 会議成立の確認・会長挨拶

会長，副会長，理事 10 名の出席（委任状含む）により，理事会が成立したことを確認した。また，山岡会長より挨拶があった。

## 報告事項

資料をもとに以下の事項の報告があり，承認された。

## 1. 庶務関係（岡根・清水庶務担当理事）

## 1) 会員動向について

英文誌購読会員の廃止および学生会員の会費未納者を除名したことにより，2018 年 3 月末から同年 11 月末にかけて正会員・学生会員ともに減少した（会員総数 89 名減少）。

## 2) 長期滞納者について（当日配布／回収資料）

11 月 5 日付けで学生会員と英文誌購読会員（正会員または学生会員に移行していない会員）を除名した。

## 3) メール理事会の開催報告

3-1) 第 1 回（5 月 1～7 日）若手会員への渡航支援について（原案承認）

3-2) 第 2 回（5 月 18～21 日）Mycoscience 誌契約書修正について（原案承認）

3-3) 第 3 回（5 月 19～21 日）修正各種規則の確認について（原案承認）

3-4) 第 4 回（6 月 6～7 日）命名規約に関する議論の代議員への転送について（原案承認）

3-5) 第 5 回（6 月 13～15 日）大阪市立自然史博物館の特別展に関する後援名義の使用許可について（原案承認）

3-6) 第 6 回（7 月 31～8 月 3 日）AMC 準備委員会メールアドレス取得・維持に関する費用負担について（原案承認）

3-7) 第 7 回（10 月 9～12 日）環境微生物系学会コミッティの担当者選出について（原案承認）

3-8) 第 8 回（10 月 23～26 日）国際シンポジウム開催案について（原案承認）

## 4) 各賞授賞候補者・授賞候補論文の募集について

10 月 26 日に募集を締め切ったが，菌学会賞候補者 1 件，奨励賞候補者 2 件，平塚賞候補論文 2 件の応募があり，授賞者および授賞論文選考委員会（景山幸二委員長）に選考を依頼した。

## 5) 2019-2020 年期役員選挙について

選挙管理委員（糟谷大河氏，渡辺京子氏）により作業が進められており，12 月 13 日投票が締め切られた。

## 6) 法人化関係

修正した各種規則のホームページ公開について。総会（5 月 25 日）にて確認，承認された各種規則の修正版を，11 月 15 日に学会ホームページより公開した。

## 2. 国内集会関係（山田・名部国内集会担当理事）

## 1) 日本菌学会第 62 回大会（信州）の開催報告

期日：2018 年 5 月 25 日（金）～5 月 27 日（日）

会場：信州大学伊那キャンパス（農学部）F 棟（総合実験実習棟）および講義棟

大会参加人数：事前申込み 235 名（KMS 40 名），当日申込み 37 名（合計 272 名）

懇親会参加人数：事前申込み 174 名，当日申込み 17 名（合計 191 名）

講演数：受賞講演：1 題，シンポジウム：5 題，一般講演：115 題（口頭発表 61 題，ポスター発表 54 題），中高生ポスター発表：7 題

## 2) 2018 年度日本菌学会菌類観察会（島根フォーレ）の開催報告

会期：2018 年 9 月 22 日（土）～24 日（月・祝）

会場：三瓶山北の原キャンプ場（多目的ホール），島根県三瓶山（島根県大田市三瓶町）

共催：島根県立三瓶自然館サヒメル，島根県中山間地域研究センター，菌類懇話会

実行委員長：長澤栄史氏（菌蕈研究所）

説明会：22 日（土）14：00 - 三瓶自然館サヒメル レクチャールーム，三瓶山・島根県立三瓶自然館サヒメルの紹介（井上雅仁氏），観察地紹介（東勇太氏，宮崎恵子氏）

観察会：23 日（日）8：00 - 21：00，三瓶山およびサヒメル・北の原キャンプ場周辺，同定会場は三瓶山北の原キャンプ場（多目的ホール）

参加者：76 名

収入：1,412,600 円。支出：1,412,600 円。

## 3) 日本菌学会第 63 回大会（秋田大会）の進捗状況

開催地・概要：秋田県立大学生物資源科学部

大会会長：秋田県立大学 村口 元 准教授

大会日程:2019年5月24日(金):編集委員会,理事会,総会,合同懇親会

5月25日(土):会員説明会・授賞式(講堂),受賞講演,中高生ポスター発表,一般口頭発表,一般ポスター発表,懇親会(ビューホテル(秋田駅前))

5月26日(日):公開シンポジウム(内容は調整中),一般講演,ポスター発表,表彰・閉会式(講堂)

#### 4) 2019年度日本菌学会菌類観察会(青森フォーレ)の進捗状況

共催:弘前大学,日本菌学会東北支部,青森県きのこ会,白神キノコの会,青森きのこ友の会,八戸きのこ友の会,三沢きのこ同好会,鱈ヶ沢町,菌類懇話会

開催地:青森県,岩木山または白神山とその周辺(予定)

開催日程:2019年9月6日(金)~8日(日)

実行委員長:佐野輝男 弘前大学 教授

進捗状況:計画に沿って順調に進めており,ニュースレター3月号に記事掲載予定.

### 3. 国際集会関係(出川 国際集会担当理事,代理:山岡会長)

#### 1) 日台合同国際シンポジウム・ワークショップ開催について

日本菌学会, 中華民国真菌學會合同, 日本菌学会関東支部 共催, 2018年12月8日~9日, 於 神奈川県立生命の星・地球博物館.

### 4. 企画・普及関係(太田・田中 企画普及担当理事)

#### 1) 普及行事

1-1) 教員のための講座「変形菌の採集と観察」(日本菌学会主催・神奈川県生物研究会共催・日本大学生物資源科学部後援) 2018年7月8日(日) 10時~16時, 於 日大生物資源科学部, 講師:越前町立福井総合植物園 松本淳氏, 参加人数:教員14名, 学生16名

1-2) 自然史セミナー 菌類学入門(大学生対象)(国立科学博物館主催,日本菌学会共催) 2018年8月4日(土) 10時~16時, 於 科博 目黒自然教育園. 講師:科博・細矢剛氏. 参加人数:43名.

1-3) 高校生のための菌類講座「博物館で学ぶ菌類学入門」(日本菌学会主催,神奈川県立生命の星・地球博物館共催) 2018年8月26日(日) 10時~16時, 於 神奈川県立生命の星・地球博物館. 講師:神奈川県立生命の星・地球博物館の折原貴道氏. 参加人数:3名. 会長名の修了証書を発行し参加者に送付した.

1-4) 自然史学会連合主催講演会へのブース出展「身近で不思議な菌の仲間たち!」(自然史学会連合主催,菌学会協力), 2018年10月28日. 於 富山市立科学博物館. 担当:科博・保坂 健太郎. 参加人数:約200名.

1-5) こどもを対象としたアウトリーチ活動「いきものミクロたんけん隊」(微生物生態学会共催) 2018年12月9日. 於 茨城県自然博物館. 参加人数:32名. 菌学会からの講師:科博・細矢剛氏, ボランティアとして板垣ひより氏, 伴さやか氏が参加した.

1-6) 日本菌学会第62回大会(信州)の高校生ポスター賞(最優秀賞2件,優秀賞5件)の副賞として,「驚きの菌ワールド」7冊を贈呈した.

1-7) こどもを対象としたアウトリーチ活動「きのこウォッチング」(島根県立三瓶自然館サヒメル主催・島根県中山間地域研究センター共催・日本菌学会協力) 2018年9月24日 10時~12時, 於 島根県立三瓶自然館サヒメル, 講師:科博・細矢剛氏, 森林総研・服部力氏, 菌蕈研・長澤栄史氏, 運営協力:名部理事, 山岡会長. 参加人数:30名. 教育普及活動の一環として,「驚きの菌ワールド」2冊を参加者2名に贈呈した.

#### 2) ニュースレターの状況

順調に発行した. 2018-3(7月号)以降は組版などの編集作業にInDesignを使用することで,以前のWordによる編集に比べて作業量を低減することができた. また,原稿投稿時に著作権譲渡書の提出を著者をお願いすることとした. これに合わせて投稿案内の内容を一部改めるとともに,原稿のスタイルについてはより平易な内容となるように変更し,「引用文献の表記例」についてはより有用な例となるように改訂を行った.

#### 3) HP, ML の状況

- ・各種情報を適宜掲載し, SNS で発信した.
- ・日本産菌類集覧データベース(~2008年)を掲載した(8月5日)
- ・AMC のバナーを掲載した(10月12日)

### 5. 編集委員会関係(服部・玉井 編集担当理事)

#### 1) 学会誌の発行状況

##### 1-1) Mycoscience

・Volume 59, 2018 (6号 483頁)(契約頁数(378~)420(~462); 21頁オーバー)

・Volume 60, 2019 (契約頁数(378~)420(~462))

60(1): 1—80 (pp. 80), Jan 2019 (予定:論文6編, 短報4編)

・掲載待ち論文の状況:EVISE 移行時頃から急速に投稿数が減少し,一時ほぼ2号分確保されていたストックが現在数編程度に減少している. EES 移行後直後から投稿数が増加しているが,投稿ペースが今後維持されるかは不明. 来年度については,契約ページの大幅な超過はない見込み.

##### 1-2) 日本菌学会会報(以下,日菌報)

・第59巻(2018年)

59(1): 論文2編(5月発行)

- 59(2) : 論文 2 編, 短報 2 編, 追悼文 1 編を掲載 (11 月発行)
  - ・ 59 (2) 分は J-STAGE から公開作業中
  - ・ クラリベイト・アナリティクス社の BIOSIS 収録
- 2) 投稿状況 (Mycoscience) について
- ・ 2018 年の投稿数 : 審査論文数 124 報, 受理 18 報, 却下 77 報 (却下率 81%), 審査中 29 報 (2018 年 1 ~ 9 月)
  - ・ EVISE 移行時頃から質の低い投稿の割合が急増し, 却下率が増加したことに加え, 総投稿数も減少した. EES 移行時頃から投稿数が再度増加している.
  - ・ 学会賞受賞総説 : 日本菌学会賞 : 2012 年度 (1 名), 2016 年度 (1 名), 2017 年度 (1 名); 奨励賞 : 2016 年度 (1 名), 2018 年度 (1 名) 投稿待ち.
- 3) Mycoscience の IF の推移について
- ・ 2016 年から若干上昇した (2017 年 IF 1.229)
- 4) 編集委員会の開催
- 4-1) 第 1 回編集委員会 : 2018 年 5 月 25 日開催 (大会期間中).
- 4-2) 第 2 回編集委員会 (2018 年 9 月 26 日付メール会議) : 平塚賞候補論文の推薦について.
- 5) EVISE から Elsevier Editorial System (EES) への再移行について (Mycoscience)
- ・ 2018 年 2 月 21 日より新投稿審査システム EVISE に移行したが, システムトラブルや使用法の複雑さに伴うトラブルが続発した.
  - ・ 投稿システムについて Elsevier 社から EES への再移行が提案され, 2018 年 11 月 21 日付けで再移行した. EVISE を通じて投稿された論文については, 今後も EVISE により審査を進める.
  - ・ Elsevier 社からは将来 Editorial Manager への移行の可能性が示唆された.
- 6) 2018 年度平塚賞候補論文の選出
- ・ 2018 年度平塚賞候補論文の選出について, 2 論文を平塚賞候補論文として推薦した.
- 7) ISAM 関連特別号
- ・ 2017 年開催の 10th International Symposium on Arctic and Alpine Mycology (ISAM10) での発表内容の中から論文投稿を受け, 59 巻 4 号を ISAM 特集号として巻頭言 1 編 (ページ外), 論文 7 編, 資料 1 編を掲載した.
- 8) 名誉会員の追悼文について
- ・ Lichtwardt 名誉会員の逝去に伴う追悼文について, 59 巻 6 号に掲載した.
  - ・ 林康夫名誉会員の逝去に伴う追悼文について執筆依頼を行った.
- 9) 編集経費
- ・ Mycoscience : 編集補助謝金 (スタイル・チェッカー

謝金) : 今年度は支出なし.

- ・ 日菌報: 英文校閲料 ~ 3,756 円 × 1 回 (59(1) 分), 1,536 円 × 1 回 (59(2) 分), J-STAGE 掲載作業料 : 318,000 円 (41(1) ~ 49(2) : 129 報分, 2018 年度予算から支出予定)

## 6. 会計関係 (中島 会計担当理事)

- ・ 2018 年度一般会計および 2018 年度特別会計の中間決算案 (2018 年 9 月 30 日時点) について, 資料に沿って説明が行われ, その内容について承認された.

## 7. その他

- 1) AMC2019 の準備状況について (中島理事)  
2018 年 12 月 5 日に三重大にて実施した打ち合わせ内容について, 配布資料を元に報告が行われた.
- 2) 第 22 回日本微生物学連盟理事会報告について (山岡会長)  
本年度 2 回目の理事会で, 今後の連盟の活動について議論されたことが報告された.

## 審議事項

資料をもとに以下の事項について審議した.

### 1. 庶務関係 (岡根・清水 庶務担当理事)

- 1) 入会申込書改訂について
  - ・ 改定案について, 後日, メール理事会において審議することが承認された.
  - ・ 学生会員に対して, 卒業・修了後の正会員への資格変更あるいは退会の意思表示を確認し, 卒業・終了年度に確実に連絡をとれるようにすることが確認された (連絡が取れない場合は除名対象とする).

### 2. 国内集会関係 (山田・名部 国内集会担当理事)

- 1) 日本菌学会第 63 回大会 (秋田大会) への運営補助金について  
地方大会で運営を安定させる観点から, 例年の運営補助金額 10 万円を見直し, 20 万円への増額に対して審議した結果, 承認された.
- 2) 日本菌学会第 64 回大会の素案について
  - ・ 2020 年 5 月下旬 ~ 6 月初旬に大阪市自然史博物館 (大会事務局 佐久間大輔氏) で開催する素案について審議した結果, この方向で進めることで承認された.
  - ・ 大会会長候補は未定のため, 責任者を誰にするか, 早急に佐久間氏に確認する.
- 3) 2020 年度日本菌学会菌類観察会について  
場所及び日程は未定のため, 菌学会関連の行事を優先して, 日程を調整していくことが承認された.
- 4) 菌類観察会地方開催時の現地下見の経費について  
学会会計で負担すべきで, 場所によって費用が異なるため, 予算立ては難しいが, それを見込んで次年度予算に計上することが承認された.

### 3. 企画・普及関係 (太田・田中企画普及担当理事)

1) ウェブサイトへの会員個人サイトのリンクに関するルールについて

審議した結果、現行のウェブサイト運営編集方針に基づき、菌学会ホームページにおいて会員個人サイトのリンク掲載は行わないこととした。現在の「菌学入門/菌を学ページ」では、博物館のリンクを残すことが承認された。

#### 4. 会計関係 (中島 会計担当理事)

- ・支出-団体分担金を5万円増加させることについて、審議した結果、承認された。
- ・支出-大会助成金について、前年度内に処理することと、20万円に増額することが認められた。
- ・支出-菌類観察会補助金：開催候補地の下見費用について、清算払いとして予備費から支出することについて、審議した結果、承認された。

#### 5. その他

1) 環境微生物系学会コミッティの設置と対応について (山岡会長)

- ・第1回会議(2018年12月6日開催)議事録資料を元に、本コミッティ参画学会による今後の合同活動の協議内容について、説明がなされた。
- ・環境微生物系学会コミッティ対応のために、菌学会内に小委員会(構成員候補者:山田明義 国内集会担当理事, 矢口貴志 副会長, 白水貴氏, 広瀬大氏, 坂本裕一氏)を設置することについて、審議した結果、承認された。

2) 海外からの植物及び菌類標本の輸入に関する問題について (山岡会長)

- ・(問題点) 海外の博物館等から日本国内への植物標本貸出/輸入の際、phytosanitary certificate の付与が求められている。phytosanitary certificate の取得に必要なコストと手間は貸主持ちとなること、植物防疫所の検査の際に指定された処理(燻蒸またはオートクレーブによる滅菌)をしていないと廃棄される可能性があることから、海外からの植物標本の貸出を拒否されるケースが発生している。
- ・問題点について、審議した結果、菌学会として提案文書をまとめて、2019年1月の分類学会連合の集会で何らかの提言をすることが承認された。

3) アジア植物病理学会 ACPP (2020年, つくば) からの後援依頼について

審議した結果、承認された。

4) Mycoscience への総説執筆依頼について (中島理事)

AMC の keynote 講演依頼者4名へ総説執筆依頼原稿のオープンアクセス費用はエルゼビア社と菌学会で折半できないか、交渉中である(菌学会側の費用は科研費の枠内で対応予定)。総説原稿をオープンアクセス化することについて、審議した結果、承認された。

5) 第10回食用菌根性きのこに関する国際ワークショップ IWEMM10 への後援および寄付依頼について (山田理事)

配布資料を元に説明がなされ、審議した結果、後援については承認されたが、寄付については一旦、保留とし、国際集会担当と検討した上で後日メール審議を行うことで承認された(後援の場合、寄付は難しいが、共催の場合は科研費からの拠出が可能である)。

6) ジャーナル Mycoscience の今後について

- ・Mycoscience も今後、全文オンライン・オープンアクセスを前提として、紙媒体を廃止し、全てオンラインベースにして投稿費を徴収する方向もある。将来的な検討事項として、今後検討することが承認された。

- ・エルゼビアとの契約は2018~2020年までだが、入札の時期もあるので、2019年度末までも検討する必要がある。2019年度の間エルゼビアとの契約を継続するか否かを決める必要がある。

7) 次期理事会への引継ぎおよび理事会開催について

- ・次回第4回理事会は引継ぎを含めて、現メンバーと次期理事会メンバー候補者を交えて開催する。2019年度第1回理事会は現理事が主体で進める。
- ・引継ぎ事項の整理を進めておく。

以上